

六甲山

後方より射してくる太陽のぬくもりを肌で感じ、ふと振り返るとそこには朝焼けに赤く染まった神戸の町並みがあった。

九二年十二月十六日午前六時二五分菊水山で日の出だ。

それまでは夜も明けぬ寒い中ひとり何をしているのか・・・なんて考えながら歩いていますが、ここからの眺めと太陽の温もりでそんな思いはどこかへ吹っ飛んでしまったようだ。そしてオレしか味わえないそんな満足感に酔いしれていた。

この一年間この六甲で教え切れないぐらいこんなことを繰り返していたのである。

はじめての縦走そして忘れられない感動

九二年十月十二日（月）午前三時五五分須磨浦公園駐車場を出発する。
私にとって始めての六甲全山縦走であると同時にこれが六甲山との長い付き合いの始まりでもあった。

この最初である六甲全山の縦走メンバーは犬塚、辻中、そしてオレの三人である。

実はこの一ヶ月後にオレはアフリカのキリマンジャロへマウンテンバイク共々登る計画があったため、そのトレーニングも兼ねてをマウンテンバイク背負っての六甲縦走をしようとしていたのである。

この縦走に向けてそれなりにトレーニングは行ってはきたが、マウンテンバイクを背負っての縦走ということなので何かトラブルがあった時のことを考え彼らを無理矢理に同行させてしまったのである。

そのお陰で無事阪急宝塚駅までなんとかたどり着くことができたのだがすでに午後五時三十分。なんと十三時間三九分もの長い道なのであった。



須磨～宝塚まではMTBを背負って帰路は電車で

「やったあ。オレにもできたんだ。」
ありふれた言葉だが、経験したもののだけが味わえる言葉で言い表せない満足感、感動が疲れ切った体を包み込んでいた。

宝塚駅から電車に乗って帰るのであるが、とにかく足の裏が〇〇センチ腫れあがっているようで痛くてたまらなかった。

でも肉体的に大変だったのはオレよりたぶん彼らであろう。

私と違って普段山歩きなどあまりしたことがないのに、付き合いでの六甲縦走であったからだ。

その証拠に彼らは市が原付近から足を引きずり始めていたのである。

後で解かったことだが先頭を歩いているオレを見て「マウンテンバイクを背負ってるオッサンに負けれない」と言っていて痛みをこらえて歩いてきたとのこと……。

あの感動をもう一度

九二年十二月十四日(月)

キリマンジャロから帰って間もなく「六甲縦走に一度行ってみたい」そんな大山、中尾、

能島達の道案内も兼ねて一緒に行くことにする。

が「ガイドだけではつまらない！せっかく行くなら自分も楽しみたい……」

と言う事で往路は MTB を背負って帰りは MTB を組み立てて乗って帰ろう！

午前三時五十分に四人揃って元気に出発、一回目休憩は妙法寺を過ぎた自販機の前高取山山頂でちょうど夜が明ける。

下り坂で「膝が痛い」と言っていた大山とは、菊水山から別行動に我々三人は先を急ぐ。

そして次は天狗道あたりから持病の膝をかばっていた能島が六甲山頂ケーブルで下山。

菊水山で別れた大山も結果的にはマイペースで六甲山頂ケーブル駅までたどり着いたらしい。



左からオレ・能島・中尾。
往路は MTB を背負って帰路はロールアウトまで MTB に乗って

しかし寒い。温度計を見るとなんと氷点下、我々二人の服装はアンダーウェアとウィンドブレーカーのみなので休憩でもしようとするならば手はしびれ体はガクガク震える。寒いので中尾と二人少しペースを上げることにする。

六甲山頂を過ぎ宝塚降り口の分岐点を過ぎた当たりから少し走り出す。でもちよつと速く走ると背負っているマウンテンバイクのフレームが足のふくらはぎに当たって走りにくい。そしてそれよりもとにかく寒い。

「帰りはマウンテンバイクに乗るのはやめて電車で帰ろう！」そう心の中でつぶやいていた。

白い息を吐きながら二人は走る。とりあえず走る。口数も少なくなっていくそうこうしているうちに塩尾寺に着く。

午後三時五分やつと着いた。阪急宝塚駅だ。不思議なことここまで来ると急に元気が出てくる。

「やっぱり、MTBで帰ろう。ロールアウトまで走って帰ろう。」

背中のMTBを十一時十五分ぶりに地におろす。そしてここで電車で帰る中尾とお別れだ。帰路は百七十一号線を南下、二号線に突き当たったら右に進路を変え後は一本道だ。

しかしMTBにまたがると寒さはさらに激しく、手足がしびれる。

ザックに入れてあった買い物ビニール袋を手足に括り付ける。格好悪いが寒さには勝てない。お陰で手足のしびれはだいぶましになった。

途中コンビニで缶コーヒーと菓子パンを口にほおぼる。

やつとこのことでロールアウトに着いたのは、午後七時を少しまわったところだった。

縦走往復で何を見た

九十三年三月二十九日(月)

須磨浦公園駐車を午前三時五十三分出発、七時四十四分に着いた市が原には小雨が降っていた。

歩き慣れた縦走路だがいつ来ても新鮮で気持



K.KATO

すべきを
たのむ

ちがが良い。

特に天句道から振り返ってみる眺めは格別である。

出発して最初に登る鉢伏山、そして高取山、菊水山、と自分の足で歩いて来た全てが見渡せて縦走路の中でも一番気に入ってる場所でもある。

午前八時三十四分摩耶山着。

先程の雨はすでに雪に変わっている。

休む間もなく先へと進む。

この季節はずれの雪は止む事を知らずオレの体、そして縦走路を白く冷たく変えて行く。こうなると薄い手袋では役には立たず、手はしびれを増し指先の感覚はなくなってくる。仕方なしに手袋を脱ぎ、ズボンの中に手を入れる。やっぱりオシリは暖かい。

左手右手と交互に入れ替える。しかしその時のわずかな隙間から風が入り背中が冷える。

「今日は止めようか。この寒さこの服装でキツイ！」何度もひとりごとを言っているが小走りに動いている足はいっこうに止まる気配がない。

山頂を過ぎ一般道路からハイキング道に入る分岐点に午前十時二十六分、周りの木々にはなんと樹氷が出来ている。もちろん氷点下の世界である。

うつすら積もった雪の上を走る。

十二時十三分宝塚駅着。朝出発してから八時間二十分ここで始めて休憩をとる。

休憩といっても靴下を脱ぎ、少し痛んだ足ワセリンを塗り(マメ防止)そして缶コーヒを飲んですぐ出発である。

ここでもう少し休みたい気もするがそんなことよりも少しで

早く家に帰って「あつたいお風呂に入りたいそんな気持ちが急がせるのか。

出発すると今度は雨、雨は更に寒さを増し

もう須磨浦公園に帰ることしか頭にはない。

六甲山頂付近まで行くと雪に変わっていた。

樹氷は更に増えてその美しさには思わず立ち止まってしまう程であった。



20時間40分の末やつのことで戻ってくることができた

足の動きが劣ってきた鍋蓋山に午後七十六分着。
もうすでに陽は落ちていた。

菊水山から夜景を眺めながら階段を降りる途中でヘッドライトの明かりが切れた。
電池を交換する間、暗闇をぐるっと見まわす。

「何も無い。誰にいない。見えるのは遠くに光る神戸の明かりだけ。」

ここは真つ暗な山の中。「オレはなぜここにいるのか、ここで何をしているのか」不思議な空間が体を包む。と同時に疲労からか頭の中がボーッとして来る。

しかし気を引き締めて「あと高取山と須磨アルプスだ」と言い聞かせる。
どうやら体もピークに達したようだ。

高取山を登る頃には歩くというよりあえず足を前に出すという行為をしているといった感じで、神経が薄れてきて自分の体でないようだ。

突然「この体もともと自分のものでもなく天から授かった小さい命……」

「自分のことも大切だがそれ以上に人の事、そして今歩いているこの縦走路の土、草木の事など……全てを包み込めるような大きな心が欲しい……」

というように普段では考えもしないようなことが頭の中を駆け回る。

午後十時四十分やつのことで須磨アルプスにたどり着く。

左膝の痛みが更に増し歩くペースもかなり遅くなる。

二十時間四十分途中何かに取り付かれたように一点を見詰めながら須磨浦公園駐車場に着いたのは日付けの変わった午前〇時三十三分であった。

二十時間四十分の長い道程であった。

六甲全縦をなめた女

九十三年四月五日(月)

縦走往復の一週間後「前から一度行きたかった」



徒歩往復の半年後にはMTBで往復を

という阿部を連れて縦走を。

オネーチャンの場合は話は別で今回はしつかりとガイド役に専念（笑）
普段は運動らしき事はこれといってしていない彼女はこの日のために四時間程度のハイキングをしただけ。

もともと丈夫そうだし「まあなんとか行けるか」とオレ。

そんな阿部は縦走当日午前三時の待ち合わせにもかかわらず「きのうは好きなテレビがあったんで十二時過ぎまで起きていたんです」と言う、睡眠時間は二時間ちよつと。

「普段運動をしてるならまだしもそうではないのにその睡眠時間で・・・甘く見過ぎちゃうか！」

須磨浦公園駐車場を午前四時前に出発、少し歩きだしてすぐに腰の痛みを訴える阿部。原因はすぐわかった。重い荷物の背負い過ぎである。何を背負っているかとザックの中を開けて

みると、ソフトボールほどもある大きなおにぎり五個に、オンザゴーが五、六個それに飲み水一リットルボトルに缶紅茶そしてチョコレートとお菓子類。

「確かに腹が減っては戦はできぬ！」ではあるが、この他にも着替えなども入っているの

だから重くなるのは当然である。

ここまでの事でも彼女はこの六甲縦走をなめている。ハイキング気分で来ている。

でもひよつとしたらこういう気持ちで縦走することが本来の楽しみ方かも知れない。

とりあえず例の大きなおにぎりをオレのザックに押し込んで出発だ。

途中、休憩らしきものはほとんどせず摩耶山で昼飯とする。

こんなバカでかいオニギリを・・・と想像していたがオレは三個も食べてしまった。

「なかなかうまいやないかっ！」

極楽茶屋から三・五キロ程は一般道路を何度か横切りながらアップダウンのある森林の中を通る。

しかし大半の場合この区間、平坦で歩きやすい一般道路の舗装路を歩くのが常である。



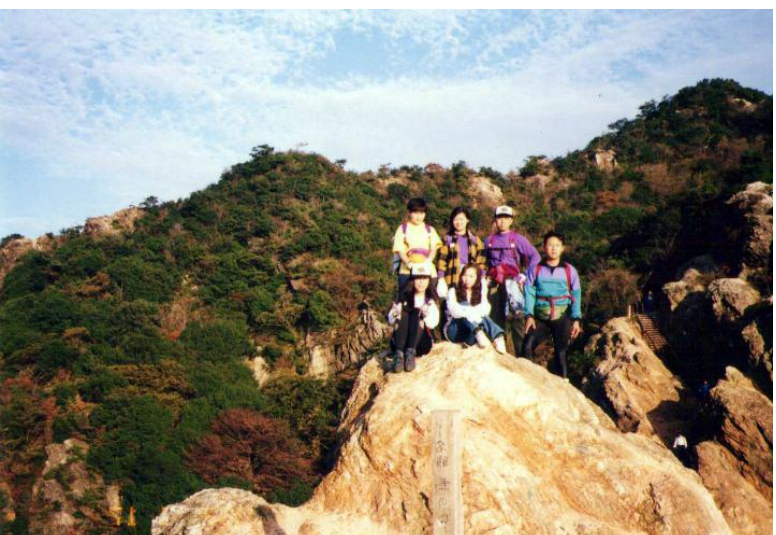
六甲縦走をなめた女は強った（笑）

オレは阿部が初めての縦走なので楽な車道を歩こうとしてたら「せっかくの全縦走なのだからちゃんと歩きたい！」と阿部。疲れているはずなのにまだまだ余裕がある。すっかりとこの六甲縦走を楽しんでいるようだ。オレはそう思いアップダウンの縦走路に進路を変えた。

六甲最高峰(九百三十一メートル)で記念写真を撮る。

ハードなことをしている時というのは誰でもそうであるが「写真を撮ろう」などという気は起こらない。でもそういう時こそ写真の価値があるような気がする。

ここを過ぎるとあとは宝塚駅までほとんどが



下り坂となる。

これから先は体力よりも足、膝の痛みなどに對してどれだけがんばれるか、忍耐力のようなもの的大事になってくる。

登りはそれ程早くはないが、相変わらず下りのペースは早い阿部。足の痛みもないらしい。

「急げば縦走時間が十二時間を切れるかもしれない」とのオレの言葉に阿部は走り出した。塩尾寺からは舗装路の足に應える下り坂である。縦走者の大半がこの坂で根をあげてしまふところである。

「さすが、六甲縦走をなめた女は強い！」と感じさせられた一日であった。

そして酸素ボンベが笑った

九十三年十一月二十一日(日)

瀬井、大西が縦走に挑戦した時のことである。

「彼女達二人ではちよつと心配」ということで泊さんが付き添いをする。

この縦走に気合の入っていた大西はオンザゴー、パワーバー(栄養補給用のスポーツ食料)を昨夜に続き、出発前にも無理矢理口に入れる。

もちろん縦走途中で食べる分はザックの中に
たくさんあるはず。

須磨浦駐車を午前六時前に出発。

ゆつくりとしたペース、笑い声も止まぬまま
妙法寺を過ぎた自動販売機の前で休憩したの
は、午前八時二十分を少しまわっていた。

そしてその笑い声に拍車を駆ける出来事が起
ころうとしていた。

大西のそのふくれ上がったザックの中からは
例の補給食だけではなく、なんとロール巻き
のトイレットペーパー一巻きが出てきたので
ある。

「そんなにどうするの？」の問いに

「みんなで使おうと思って」と大西。



トイレットペーパー1巻きと酸素ボンベまで持ち込んだ大西

キャンプをするわけでもないのに縦走ではこんなにたくさん
のトイレットペーパーは、
いらぬはずである。

そして究めつけはなんとザックの中から酸

素ボンベが出てきたのである。

笑いは頂点へと達した。

「縦走はとてみたいへん！」と聞かされていたから仕方ないこと
かもしれないがそれにし
ても酸素ボンベまで用意して来るとは。

そうした彼女の努力も空しく縦走挑戦は摩耶山で打ち切られた。

須磨浦駐車場を出てから十一時間の長旅であった。

でもこの日のことは彼女達にとって良い思い出となっただろう。
摩耶山から戻ってきた大西はとてすがすがしい顔をしていた。

素晴らしき六甲

四季の移り変わりを肌で感じそして港町神戸の町並みを見下ろしながら歩く。
 こんな素晴らしい縦走路は他にあるだろうか。

素晴らしくそしてとてもハードなコース(約五十六キロ)を多くの人が縦走している。
 しかし誰でもが簡単に出来るものではない。苦しみを乗り越えそれぞれの思いを持って歩
 いているのである。それはまるで人生の縮図の様に思える。
 オレはこれからもそんな六甲の山々を楽しみながら歩き続けたい。

写真・文 K.KATO

六甲縦走を十倍楽しむ方法

六甲縦走往復

MTBとハイキングのタイム比較(気象条件及び年月も違うのであくまで参考です)

場所	MTB						徒歩			
	10/10/05	09/09/17	08/08/24	08/04/22	98/04/08	94/05/30	93/09/27	09/04/28	94/7/024	93/03/29
須磨浦	3:45	4:00	4:00	4:00	4:20	4:00	3:50	3:55	4:47	3:55
高取山	5:31	5:45	5:50	6:05	6:15	6:20	6:25	5:24	6:11	-
新取山	6:34	6:56	6:58	7:05	7:20	7:21	7:24	6:21	7:06	6:46
新取山	7:13	7:34	7:35	7:45	7:59	8:06	8:06	6:49	7:43	-
摩取山	8:36	8:54	9:01	9:00	9:17	9:46	9:24	7:52	8:38	8:44
最高峰(軒茶屋)	9:32	10:00	10:13	10:10	10:25	10:57	10:30	9:26	10:04	10:22
塩屋寺	10:40	11:07	11:18	11:20	11:33	12:07	11:41	10:47	11:32	11:44
宝塚駅→塩屋寺	塩屋寺で お返し	塩屋寺で お返し	塩屋寺で お返し	塩屋寺で お返し	塩屋寺で お返し(分 補給水補給)	宝塚駅 12:14?	11:50(3分 補給水)	塩屋寺で お返し	宝塚駅 11:52	宝塚駅 12:13
最高峰(軒茶屋)	12:28	13:03	13:11	13:25	13:25	15:00	14:29	12:40	14:29	15:00
摩取山	13:12	13:52	14:05	14:15	14:32	15:59	15:25	14:18	16:23	16:55
新取山	14:36	15:18	15:34	15:55	16:54	17:28	-	15:46	17:51	-
高取山	15:23	16:05	16:18	17:00	16:35	18:16	18:00	16:25	18:32	19:22
須磨浦	16:29	17:12	17:26	18:00	17:42	19:59	-	17:47	20:02	-
往路	18:39	19:20	19:30	20:30	19:51	23:00	22:26	20:03	22:33	0:33
復路	6:55	7:07	7:18	7:25	7:13	8:14	8:00	6:52	7:05	8:18
往路時間	7:59	8:13	8:12	9:05	8:18	10:46	10:36	9:16	10:41	12:20
復路時間	14:54	15:20	15:30	15:30	15:31	19:00	18:36	16:08	17:46	20:38
他				MTB往復は 10年ぶり	-	ゾアノ木 確認取材	-	徒歩往復は 15年ぶり	-	山頂香沸水